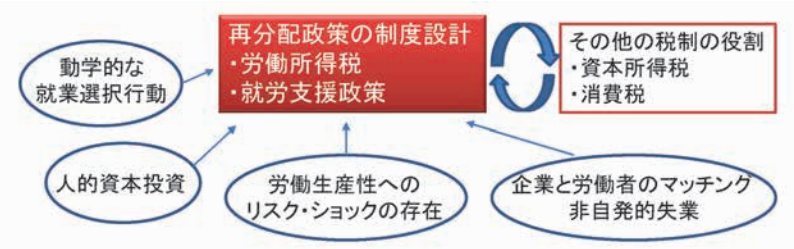
“公平で効率な租税制度と再分配政策”

准教授　高松　慶裕（財政学、公共経済学）

1981年9月生まれ、2011年早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程修了（博士（商学））、
2012年早稲田大学商学学術院助教、2013年静岡大学人文社会科学部准教授
2016年より第3期若手重点研究者

研究概要



私は財政学・公共経済学の中でも租税論、特に最適所得税論という分野を中心に理論的研究と制度研究を行ってきました。私の関心は、政府はどのように再分配すればよいか（端的に言えば、高所得者からどのようにお金を集め（課税）、低所得者にどのように配るか（移転））という問題です。

最適所得税の特徴は、人々の行動をできる限り歪めないように（効率性）、どのように再分配すればよいか（公平性）を考えます。わが国では雇用形態や賃金体系の多様化により、就業しても貧困状態を脱せないワーキング・プアに対してどのようなセーフティ・ネットを築くかが問題となっています。一方、本来就業可能な家計が就業できない家計を模倣することで公的扶助を受給することや、一度公的扶助を受給すると就労インセンティブを失い、公的扶助による支援から抜け出すことのできない貧困の罠をどう回避するかも問題です。このような効率性と公平性のトレード・オフを考慮しながら、どのような租税制度や再分配政策が望ましいかを研究しています。

メッセージ

現在は、現実社会をより説明するような要素を取り込むように最適所得税のモデルを拡張することに関心があります。例えば、最も基本的なモデルでは人々の労働生産性は外生的に与えられますが、長い人生の中では産業構造の変化や技術革新により求められるスキルも変わるかもしれませんし、その人の受けた教育により生産性は変化するでしょう。したがって、モデルを動学化し、人々の労働生産性が通時的に変化する場合や大学での教育を含む人的資本投資が与える影響を考慮することは重要です。また、就労したくても企業とのマッチングがうまくいかずに失業状態となる非自発的な失業を考慮したモデルも検討しています。こうした研究を通して、租税制度や再分配政策の新たな制度設計と既存制度の理論的妥当性の付与に貢献できればと考えています。

【主な研究業績】

外部資金獲得状況：
科学研究費補助金若手研究（B）「最適所得税と失業者への再分配政策」（2015-2018）、科学研究費補助金若手研究（B）「動学的就業選択モデルに基づく最適所得税と再分配政策」（2013-2015）。

著書・論文：
1）「就業選択モデルに基づく最適所得税の展開」『経済研究』第20巻４号, pp. 153-164, （2016）.
2）（共著）「動学的最適性と遂行問題―労働所得税と資本所得税―」『経済研究』第19巻１号, pp. 23-32, （2014）.
3）「Mirrlees型の動学的最適所得税の展開―資本所得税の役割に注目して―」『証券経済研究』第81号, pp. 127-142, （2013）.

若手重点研究者